小松宮御葬儀係之件

追テ柩護材乾運搬等為別ニ人夫二名

附属為致候間御承知之上付與相成度候也

立案 明治三十六年二月十九日

決裁 明治 年 月 日

掛長 印

掛

故元帥陸軍大将彰仁親王葬送行列

書別冊取調相伺候也

備考
官報ニ掲載ノ行列書ニハ陸海軍楽隊及朱書ヲ省ク

葬送行列書

警部 騎馬
警部 騎馬
皇宮警手

警視 騎馬
陸軍々楽隊
儀仗兵

警部 騎馬
警部 騎馬

真榊 二人 雑色

白旗 一人 雑色

同 同

同 同

同 同

同 同 手替二人

真榊 二人 雑色

白旗 一人 雑色

同 同

同 同

同 同

同 同 手替二人

祭官 狩衣 高橋勇治

祭官 狩衣 大澤小源太

祭官 衣冠 土肥慶藏

祭官 狩衣 武藤安理

祭官 狩衣 香西景正

副齋主 衣冠 [illegible]正親

祭官 狩衣 [illegible]重明

祭官 狩衣 [illegible]

齋主 衣冠 北房義質

皇宮警手

伶人 狩衣

伶人 狩衣

伶人 狩衣

伶人 狩衣

伶人 狩衣

伶人 狩衣

根越榊 三人 雑色

根越榊 三人 雑色

皇太子妃殿下 御榊

皇太子妃殿下 御榊

皇太子殿下 御榊

皇太子殿下 御榊

外國皇帝陛下 御花環

皇后陛下 御榊

皇后陛下 御榊

天皇陛下 御榊

天皇陛下 御榊

錦旗 家従 狩衣 雑色四人 星野威一

錦旗 家従 狩衣 雑色四人 香田岩松

桙 雑色 一人

桙 雑色 一人

同 同

同 同

同 同

同 同

楯 雑色 一人

楯 雑色 一人

同 同 手替二人

同 同 手替二人

榊 雑色 二人

榊 雑色 二人

同 同

同 同

家従 狩衣 大藪亀之助

家従 狩衣 草場春松

皇宮警手

小松宮家令 衣冠 丹羽龍之助

布哇国勲章 古谷保輔 富永重寿

元勲従軍記章及其他記念章 勲章 山中栄吉 正木義太

丁抹国勲章 湯浅秀純 佐藤鋼次郎

暹羅国勲章 川浪安勝 伊集院俊

伊太利国（コンモンドール）勲章 菊池慎之助 林太郎

瑞典国勲章 廣瀬顕一 木村篤之郎

清国勲章 西川伊次郎 [illegible]次郎

露西亜国（アレキサンデルネウスキー）勲章 中村松太郎 金丸清輝

独逸国勲章 草生政恒 山口勝

墺地利国勲章 中野直枝 鍵和田專太郎

大不列顛国勲章 小池安之 柳原昇造

西班牙国勲章 財部彪 山口鋭

仏蘭西国勲章 竹内武 岡本之助

白耳義国勲章 大澤養太郎 齋藤季次

伊太利国（グランコルドン）勲章 千秋直之 松川敏胤

露西亜国（サントアンナ）勲章 田中盛秀 西尾雄次郎

勲一等瑞宝章 勲章 蠣崎富三郎 大沢界雄

功二級金鵄章 勲章 古谷忠造 菅哲三郎

桐花大綬章 勲章 及川恒昌 木戸道純

旭日大綬章 勲章 阪元常英 布目満造

菊花章頸飾 菊花大綬章 勲章 伊崎良煕 駒澤経司

陸軍將校總代
山口素臣
三見尚文
田村怡與造
村山邦彦

海軍將校總代
伊東祐亨
有馬新一
肝付兼行
出羽重遠

藤室松次郎
柴勝三郎
東乙彦
川上素一
山口亨
家扶 狩衣 坂井孝

柩 雜色 六十人
附屬武官 李昌弘太郎
元帥副官 太秦供康

植村永孚
井上良智
皇宮警部
阪本俊篤
家扶 狩衣 立川田彦

家従 狩衣 河瀬敬直
呉床 雜色 二人
雨皮 雜色 一人
刀 家従 狩衣 横山直義
沓 家従 狩衣 岩嶋十太郎

家従 狩衣 李君義達
呉床 雜色 二人
剣 家従 狩衣 佐藤留治

従卒
家従 狩衣 山島俊松
牽馬 口付雜色
同 高鍋亮
家従 狩衣 佐藤直壽
家従 狩衣 松井泰次郎

喪主 載仁親王 喪服加素服

従卒
家従 狩衣 宮下虎三郎
牽馬 口付雜色
同 上田政次郎
家従 狩衣 豊島鐵太郎
家従 狩衣 吉沢勉

皇宮警部

皇族　親族　葬儀掛

附屬武官
田中義一

豊島岡総門より
表服加素服
妃殿下
上野 御用掛

三宮義胤

多田好問　南弘

吉田鶴一　栗原廣太

主治醫
呉秀三
岩井禎三

家従 狩衣
樋口鐵太郎

家従 狩衣
桂木兼三

大魚位

親任官

皇宮警手

親任官待遇

公爵
從一位

勲一等

一等官

侯爵
正二位

二等官

勅任待遇

麝香間祗候

錦鶏間祗候

神佛各宗派管長

伯爵 従二位 勲二等

子爵 正従三位 勲三等

男爵 正従四位

奏任官

皇宮警手

奏任待遇

勲四等 正五位 以下

門跡寺院住職

貴族院議員

東京府會議長

東京府参事會員

東京市長

東京市助役

東京市會議長

東京市参事會員

東京市各區長

日本赤十字社々員総代

大日本塩業協會総代

大日本農會々員総代

大日本水産會総代

大日本女學會総代

皇宮警手

海軍々樂隊

儀仗兵

警視 騎馬

警部 騎馬

警部 騎馬

備考　本列中今回ハ神饌辛櫃ヲ除ク他ヲ調製セス

宮内省　丙第八一號

來ル二十六日彰仁親王殿下御葬送ノ節儀仗兵ノ儀ニ付別紙ノ通陸軍大臣ヘ及通達候條此段及御通牒候也

明治三十六年二月二十日

宮内大臣子爵田中光顕

故元帥陸軍大将彰仁親王葬儀掛長

男爵三宮義胤殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

丙第七八號

今般彰仁親王殿下薨去ニ付國葬被
仰出候ニ就テハ御葬送之節近衛師團半
數并第一師團全部ヲ儀仗トシテ賜候旨
御沙汰ニ候此段及御通達候也

明治三十六年二月二十日

宮内大臣子爵田中光顕

陸軍大臣寺内正毅殿

丙第七九號

彰仁親王殿下儀仗兵ノ儀ニ付
御沙汰ノ趣申進置候處同親王ハ近衛都督
近衛師團長等御奉職十五年之長日月
親衛ノ任ニ被為當候御經歷モ有之候間別
段ノ思食ヲ以テ更ニ近衛師團半數ノ儀仗
ヲ賜リ候旨重テ
御沙汰有之候此段及御
通達候也

明治三十六年二月二十日

宮内大臣子爵田中光顯

陸軍大臣寺内正毅殿

伺済

立案 明治卅六年二月十九日

決裁 明治　年　月　日

今般彰仁親王薨去ニ付國喪被　仰出候處
葬送ノ節儀仗兵之儀ハ熾仁親王御葬儀
之例ニ依リ第一師團全部近衛師團半數ヲ
賜ハリ可然哉陸軍大臣ヘ傳達案相具此段
相伺候也

宮内省

按

今般彰仁親王殿下薨去ニ付國葬被
仰出候ニ就テハ御葬送之節近衛師團
半數第一師團全部ヲ儀仗トシテ賜候旨
御沙汰ニ候此段及御通達候也

二月二十日

宮内大臣

陸軍大臣

伺濟

立案　明治廿年二月十九日
決裁　明治　年　月　日

内事課長

内事課次長

内事課[illegible]

大臣

次官

侍従長

今般彰仁親王殿下御葬送之節儀仗兵ノ儀
ハ熾仁親王ノ例ニ依リ近衛師團半數第一師
團全部被附候旨　御治定相成候處彰仁親
王ハ嘗テ近衛都督近衛師團長御奉職相
成十五年間親衛ノ任ニ被為當候勤勞モ有

之候ヘハ別段ノ思召ヲ以テ更ニ近衛師團半数ノ
儀仗ヲ賜ルヘキ旨陸軍大臣ヘ傳達案相具シ
此段相伺候也

按

彰仁親王殿下儀仗兵ノ儀ニ付
御沙汰ノ趣申進置候處同親王ハ近衛都
督近衛師團長等御奉職十五年之長
日月親衛ノ任ニ被為當候御経歴モ有之候
間別段ノ思召ヲ以テ更ニ近衛師團半數ノ
儀仗ヲ賜リ候旨重テ　御沙汰有之候此
段及御通達候也

二月二十日

陸軍大臣

宮内大臣

立案　明治卅六年二月二十日
決裁　明治　年　月　日

内事課長　内事課次長　内事課勤務

大臣　次官

来ル二十六日彰仁親王殿下御葬送ノ節儀
仗兵之儀ニ付別紙ノ通陸軍大臣ヘ及通達
候條此段相達候也

明治三十六年二月二十日

宮内大臣

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

小松宮別当

彰仁親王葬儀掛長（末文相違ヨリ御通牒ニ作ル）

陸三二

明治卅六年二月廿一日

内閣書記官　印

内閣総理大臣　花押

内閣書記官長　印

西部都督陸軍中将男爵黒木為楨職務ノ件

明治三十六年二月

将官職務件

可

陸軍大臣寺内正毅 花押

左之通奉仰 允裁候

西部都督陸軍中将男爵黒木為楨

右故元帥陸軍大将大勲位功二級彰仁親

王葬送儀仗兵諸兵指揮官被仰

付度

故彰仁親王殿下御葬送儀仗兵ニ関スル命令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

故彰仁親王殿下御葬送儀仗兵ニ関スル命令

一、葵町御本部御発柩ハ二月二十六日午前九時ト定メラル

二、儀仗兵ノ區分左ノ如シ

甲、前駆儀仗兵（同行進序列）

近衛騎兵聯隊長ノ指揮スル騎兵一中隊

近衛輜重兵大隊長ノ指揮スル輜重兵一中隊

近衛師團軍樂隊一隊

近衛師團長

近衛歩兵第一旅團長
近衛歩兵第一聯隊長ノ指揮スル歩
兵一大隊
近衛歩兵第二聯隊長ノ指揮スル歩
兵一大隊
近衛歩兵第二旅團長
近衛歩兵第三聯隊長ノ指揮スル歩
兵一大隊
近衛歩兵第四聯隊長ノ指揮スル歩
兵一大隊
近衛工兵大隊長ノ指揮スル工兵一
中隊

乙、後駆儀仗兵（同行進序列）

儀仗兵諸兵指揮官
海軍々樂隊
海軍兵二大隊
第一師團長
歩兵第一旅團長
歩兵第一聯隊長ノ指揮スル歩兵一
大隊
歩兵第二旅團長
歩兵第三聯隊長ノ指揮スル歩兵一
大隊
工兵第一大隊長ノ指揮スル工兵一
中隊
野戰砲兵第一旅團長

近衛野戰砲兵聯隊長ノ指揮スル砲兵一中隊
野戰砲兵第十三聯隊長ノ指揮スル砲兵一中隊
野戰砲兵第廿四聯隊長ノ指揮スル砲兵一中隊
野戰砲兵第十五聯隊長ノ指揮スル砲兵一中隊
騎兵第一聯隊長ノ指揮スル騎兵一中隊
輜重兵第一大隊長ノ指揮スル輜重兵一中隊

丙 諸列儀仗兵

残餘ノ諸隊

三、儀仗兵ハ二十六日午前八時三十分迄ニ別紙略圖第一ニ示ス如ク集合整列スヘシ但シ騎兵輜重兵ハ乗馬編成砲兵ハ繋駕編成トシ軍旗ハ聯隊長ノ指揮スル部隊ニ屬ス

四、御出柩ノ節ハ海軍々樂隊ハ「命ヲステヽ」三回ヲ吹奏スヘシ之ト同時ニ各隊ハ敬禮ヲ行ヒ近衛師團軍樂隊及喇叭隊ハ「命ヲステヽ」一回ヲ吹奏スヘシ

五、前驅儀仗兵ハ喇叭「前ヘ」ノ號音ニヨリテ行進ヲ起シ御道筋ヲ前進シ其先頭ハ大塚上町ヨリ右折シ其後尾御墓所表門前

ヲ通過シ終レハ停止正面スヘシ

六、堵列儀仗兵ハ御柩通過ニ際シ歩兵、砲兵及工兵ハ大隊、騎兵、輜重兵ハ中隊毎ニ敬禮ヲ行ヒ喇叭群ハ「命ヲステヽ」ヲ吹奏スヘシ

但シ甲部隊ノ喇叭群ノ吹奏ヲ止ムルハ乙部隊喇叭群ノ吹奏ヲ始メタル時ニ於テス

七、堵列儀仗兵ハ御列ノ後尾通過シ終リタル後往路ヲ經テ退散スヘシ

八、前駆儀仗兵中近衛歩兵聯隊ノ最後尾中隊ニ弔銃齊發ヲ仕ス其施行ノ位置及細部ノ規定ハ別ニ之ヲ指示ス

九、服装喪章并ニ弔銃齊發ニ關シテハ陸軍會葬式及表葬式ヲ適用スヘシ

十、前駆及後駆儀仗兵ハ弔銃齊發ト同時ニ敬禮ヲ行ヒ喇叭群ハ「命ヲステヽ」一回ヲ吹奏スヘシ之ヲ終レハ別紙略圖第二ニ示ス道路ヲ經テ退散スヘシ

十一、余ハ午前八時ヨリ葵町御正門前ニ在リ

明治卅六年二月二十四日

儀仗兵諸兵指揮官男爵黒木爲楨

朴

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

このコマには図面表等がありますから下記の原本をみてください。

請求番号 2A 38-5 ㊞ 41

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

掛長

掛

八

別紙ノ通海軍大臣ヨリ報告有之候ニ付
為心得此段及御通牒候也

明治三十七年二月廿二日

内閣書記官長 柴田家門

故大勲位陸軍大将彰仁親王家別当

男爵 二宮義胤殿

（別紙）

故彰仁親王殿下葬儀ニ海軍儀仗隊二
大隊海軍々楽隊一隊ヲ参加セシメラル
旨御聞届有之度此段及御報告候也

明治三十六年二月二十七日

海軍大臣

内閣総理大臣宛

掛長

掛

方

海総第六二九号ノ二

故彰仁親王殿下葬儀ニ海軍
儀仗隊二大隊海軍々楽隊一隊ヲ
参加セシメラル
右ノ義御承知有之度此段及御通知候也

明治三十六年二月二十七日

海軍大臣男爵山本権兵衛

故元帥陸軍大将彰仁親王
葬儀掛長男爵三宮義胤殿

儀仗兵ノ義ニ付陸軍総務長官ヘ照會案

来ル二十六日故小松宮彰仁親王殿下御葬送ノ節被附之儀仗兵ノ儀ニ付豫メ御打合致度ニ付本日午後ゟ一名當掛ヘ御差出相成度此段及御照會候也

明治三十六年二月十九日

葬儀掛長

（海軍省ハ田中葬儀掛出頭口頭ニテ打合済）

右照會ニ依リ打合ノ為メ左記両名葬儀掛事務所ヘ出頭

陸軍省軍務局軍事課長 陸軍歩兵大佐 岡市之助

海軍省軍務局課員 海軍少佐 真田鶴松

局甲一二

明治卅六年二月廿一日　内閣書記官

内閣総理大臣　内閣書記官長

別紙故元帥陸軍大将彰仁親王葬儀掛長上申御葬送当日軍楽隊差出方ノ件ハ左ノ通陸軍大臣ヘ照会相成然ルヘシ

照会案

来ル二十六日故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬送ニ付当日軍楽隊一隊差出方御取

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

計相成度此段及御照會候也

明治三十六年二月廿一日　内閣總理大臣

陸軍大臣宛

葬儀掛ヘ通牒

仝

立案　明治卅六年二月　日
決裁　明治　年　月　日

掛長

掛

樂隊差出方内閣總理大臣ヘ上申案

来ル二十六日故彰仁親王殿下御葬送ノ節軍樂隊一隊差出候樣陸軍省ヘ御達相成度此段上申候也

二月廿一日　故元帥陸軍大將彰仁親王葬儀掛長

掛長

掛

内閣 二一号

故元帥陸軍大将熾仁親王殿下御葬儀
之節御霊柩御通過ノ節装飾方其他ノ件ニ付
別紙之通陸軍大臣ヨリ申出之旨承認相成候間
段及御通知候也

明治二十八年二月廿日

内閣書記官

故元帥陸軍大将熾仁親王葬儀掛
御中

内閣書記官室

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

来ル二十六日故元帥陸軍大将彰仁親王殿下
御葬儀ニ付御墓所御道筋両側方軍楽隊
一隊差出方并分時弔砲施行ノ件是迄第一二
号是迄第一三号及是迄第一四号ヲ以テ御照
会ノ趣了承致候然ル処御照会ノ通可取計候
條此段及御回答候也

明治三十六年二月二十日

陸軍大臣寺内正毅

内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

丙甲二〇八ノ

内閣

掛長

掛

否

海總[redacted]第六三九號ノ四

御別紙之通陸軍省ヨリ照會有之一洵ニ
右ハ当省ニ於テ差支無之候哉
承知いたし度ニ付
陸軍ヘ回答可致ニ付此段相伺候也
右之御達ニ大臣ニ於テ
某儀掛中兼務三等出仕閣下

故彰仁親王殿下葬儀ニ海軍儀仗隊ヲ出シ海軍々楽隊一隊ヲ之ニ加ヘシメ儀仗隊司令官麾下ニ配属其他各部員及砲術練習艦員水雷術練習所所員等ヲ以テ之ヲ編制シ葬儀当日即チ来ル二十六日午前八時三十分迄ニ東京市赤坂区葵町小松宮御邸ヘ派遣ニ取計フヘシ

明治三十六年二月廿二日　海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官

陸軍省送甲第　号

来ル二十六日故元帥彰仁親王殿下御葬送ノ節陸軍会葬者総代并勲章奉持者別紙人名ノ者被差出候間右御承知此段及御通牒候也

明治三十六年二月二十四日

陸軍省総務局庶務課長村山邦彦

故元帥彰仁親王殿下御葬儀掛

御中

陸軍省総務局庶務課

陸軍省

陸軍省

[illegible]

明治二十八年二月二十日

[illegible]

陸軍會葬者總代人名

陸軍中將男爵　山口素臣
仝　仝　立見尚文
陸軍少將　田村怡與造
陸軍歩兵大佐　村山邦彥
陸軍砲兵中佐　藤室松次郎
陸軍歩兵少佐　柴勝三郎
陸軍砲兵大尉　東乙彥
陸軍歩兵中尉子爵　川上素一
陸軍歩兵少尉　山口亨

勲章奉持者人名

陸軍歩兵大佐 伊崎良凞
陸軍騎兵大佐 本多道純
陸軍輜重兵大佐 大澤界雄
陸軍歩兵大佐 松川敏胤
仝 岡市之助
陸軍工兵大佐 榊原昇造
陸軍砲兵大佐 山口勝
陸軍工兵大佐 阿部貞次郎
陸軍歩兵中佐 林太郎
陸軍砲兵中佐 佐藤鋼次郎

仝 富永直尋
陸軍歩兵少佐 鵜澤總司
仝 及川恒昌
仝 蠣崎富三郎
陸軍工兵少佐 千秋直之
陸軍歩兵少佐 竹内武
仝 小池安之
仝 草生政恒
仝 西川虎次郎
仝 菊池慎之助
陸軍歩兵大尉 湯淺秀紀

[redacted]

陸軍歩兵大尉　皆谷榮輔

（桐花章）
本多大佐
立川少佐

山口中将　立見中将　田村少将　樺山大佐　藤井中佐　小柴少佐　東大尉　川上中尉　山口少尉

（大勲位菊花章頸飾）
伊崎大佐
磯濱少佐

御柩

海軍将校同　同　同　同　同　同　同　同

相添條ハ熟考持考介添
ノ義ハ昨日モ申出候談判ニ及ヒ
変更致シモ申候迄ナキ趣ニ付
別紙ノ通組合セリ変換致シ
可申哉申談候處又總代ノ内
須要ノ事件ハ更又有之兵
如作業續之節ニ変更致シ候

右ハ昨日差出候掛り之様ノ分ハ小
吏訂正致し無之写も亦之承
右之次第右為念申述候　敬具

二月廿一日

岡大佐

多田書記官殿

掛長

掛

陸軍総代

陸軍中将男爵山口素臣
陸軍中将男爵立見尚文
陸軍少将　田村怡与造
陸軍歩兵大佐村山邦彦
陸軍砲兵中佐藤室松次郎
陸軍歩兵少佐須知源次郎
陸軍砲兵大尉東乙彦
中尉ハ近衛師団ヨリ
少尉ハ第一師団ヨリ

勲章捧持者

陸軍歩兵大佐伊崎良煕

陸軍歩兵少佐竹内武

陸軍騎兵大佐本多道純

陸軍歩兵少佐及川恒昌

陸軍輜重兵大佐大澤界雄

陸軍歩兵少佐西川虎次郎

陸軍歩兵大佐松川敏胤

陸軍歩兵少佐小池安之

陸軍歩兵大佐岡市之助

陸軍歩兵少佐草生政恒
陸軍工兵大佐榊原昇造
陸軍歩兵少佐菊地慎之助
陸軍砲兵大佐山口勝
陸軍工兵少佐千秋直之
陸軍工兵大佐阿部貞次郎
陸軍歩兵少佐蠣崎富三郎
陸軍歩兵中佐林太郎
陸軍歩兵大尉湯浅秀紀
陸軍砲兵中佐佐藤鋼次郎
陸軍歩兵大尉皆谷榮輔

陸軍砲兵中佐冨永直尋
陸軍歩兵少佐鵜澤総司

儀仗兵中左ノ諸隊ヲ靈柩ノ前後ニ附シ其他ハ御
道筋ニ整列シテ靈柩ヲ奉送ス

一、近衛師團

師團長

歩兵両旅團長

砲兵旅團長

歩兵各聯隊ヨリ聯隊長ノ指揮スル歩兵一大隊ツヽ

（計四大隊）

騎兵聯隊長ノ指揮スル騎兵一中隊・

野戦砲兵各聯隊ヨリ聯隊長ノ指揮スル砲兵一

故親王葬儀

兵科　明治　年　月　日

掛長　掛

来ル廿六日故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬送之節之指揮（海軍将校總代ニ而差出相成候ニ付右御承知相成度候也

明治三十六年二月廿日

中隊ツヽ（計四中隊）

工兵大隊長ノ指揮スル工兵一中隊

輜重兵大隊長ノ指揮スル輜重兵一中隊

二、第一師團

師團長

歩兵両旅團長

歩兵各聯隊ヨリ聯隊長ノ指揮スル歩兵一大隊ツヽ（計二大隊）

騎兵聯隊長ノ指揮スル騎兵一中隊

工兵大隊長ノ指揮スル工兵一中隊

輜重兵大隊長ノ指揮スル輜重兵一中隊

三、海軍儀仗隊（同軍樂隊ヲ有ス）

掛長

掛

存

第六四二號

来ル二十三日故元帥陸軍大将彰仁親
王殿下御葬送ノ節参列之儀
海軍総代トシテ参拝セシムヘキ人名
御通知相成度此段及照会候也

明治三十六年二月二十一日

海軍総務長官 斎藤實

故元帥陸軍大将彰仁親王
葬儀掛長男爵[illegible]殿

故元帥陸軍大将彰仁親王葬儀掛長

海軍総務長官

当省総代之人名并随行人数御申越有之度候也

陪検者
一 海軍大将子爵 伊東祐亨
一 海軍中将 有馬新一
〃 海軍少将 柴山矢八
〃 出羽重遠
一 井上良智
〃 坂本俊篤

艤装検査官
〃 海軍中佐 吉石忠進（海軍中佐坂元章英）
〃 田中盛秀

一 大河内左七郎
〃 海軍大佐 成新彪
一 中野直枝
一 中村松太郎
一 尾崎彰一
一 川原安徳
一 山中柴吉
一 布目満造
一 堀輝房

海軍少佐 荒井哲二郎
〃 西尾雄治郎
〃 島田米六
〃 山口鋭
〃 鍵和田専太郎
海軍大尉 上村丸儀偉
〃 木村甚三郎
〃 伊集院俊
〃 両木義太

第六四二号ノ二

海軍中佐 沢元常英
右ハ来ル二十七日当元御召艦ニテ
英国ヘ差遣ノ趣ニ付同中佐并
右俊ハ常ノ代リ兼務ノ候ニ付
生ハ可ノ代リ高中佐并[illegible]
勤ノ旨可被申付候事
明治十二年十月二十六日
海軍卿代理 [illegible]

右小松宮
英国御差遣被仰付候也
[illegible]

海軍

局甲二

明治三十六年二月二十日　内閣書記官

内閣總理大臣　内閣書記官長

別紙故元帥陸軍大将彰仁親王葬儀掛長上申葬儀當日警察官派出ノ件ハ内務大臣ヨリ警視廳ヘ訓令セラルヘキモノト付左ノ通同大臣ヘ照會相成然ルヘシ

内務大臣ヘ照會案

故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬儀来

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

内閣

来ル二十六日午前九時御出棺豊島岡御墓地ヘ御埋葬相成候ニ付テハ右御葬送ノ節前駆後衛トシテ警視二名警部六名差出方及御道筋諸取締等ノ儀警視廳ヘ達セラレ度此段及御照會候也

明治三十六年二月二十日　内閣總理大臣

追テ御道筋別紙ノ通ニ有之尚御墓所御道筋取締ノ義ニ付テハ憲兵司令部ヘモ被達候樣陸軍大臣ヘモ照會済ニ付為念申添候也

葬儀掛ヘ通牒

主管　明治卅六年二月十九日
決裁　明治　年　月　日

葬儀掛長　各
葬儀掛

警察官差出方内閣ヘ上申案

警視廳

来ル二十六日故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬送ノ節前駆後衛トシテ警視二名警部六名差出スヘシ

宮内省

警視廳

故元帥陸軍大將彰仁親王殿下御葬儀來ル二十六日午前九時御出棺豊島岡御墓所ヘ御埋葬ニ付御道筋諸取締致スヘシ

但御道筋別紙ノ通

右之通御達相成度此段上申候也

廿六年二月二十日

葬儀掛長

總理大臣宛

掛長

擬

右

内閣送第三號

故元帥陸軍大將彰仁親王殿下御葬儀ニ付警察官派出等ノ儀ハ別紙写ノ通内務大臣ヘ照会致候ニ付此段及御通牒候也

明治廿六年二月二十日

内閣書記官長 柴田家門

故元帥陸軍大將彰仁親王葬儀掛

男爵三宮義胤殿

故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬儀来ル二十六日[illegible]

[illegible]

右之通御達相成度此段上申候也

[illegible]

故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬儀来ル
二十六日午前九時御出棺豊島岡御墓地ヘ御埋
葬相成候ニ付テハ右御葬送ノ節前駆後衛トシテ
警視二名警部六名差出方並御道筋諸所警備
等ノ儀警視廳ヘ達セラレ度此段及照會
候也

明治三十六年二月二十日

内閣總理大臣

内務大臣ヘ

葬儀当日沿道警衛ノ通ニ於テ尚内葬所附近警
戒ノ義モ併セテ衛戍総督ニ於テ担任陸
軍大臣ヘ照会及為念申添候也

故元帥陸軍大将彰仁親王殿下ノ葬
儀当日東京衛戍総督ニ於テ沿道警
所轄ノ儀ニ付別紙ノ通内務大臣ヨリ
照会有之候ニ付此段及御通知候也
明治三十六年二月十九日
内閣書記官長

故元帥陸軍大将彰仁親王殿下
葬儀掛
御中

[illegible]

本月二十日付送第五号ヲ以テ故元帥陸軍大将彰仁親王殿下御葬儀当日奉送官並出京者ニ於テ道一般諸取締ノ義ニ付御照会ノ趣了承右ハ御来示ノ通警視総監ヘ訓令取計置候条此段及回答候也

明治三十六年二月六日

内務大臣男爵内海忠勝

内閣総理大臣伯爵桂太郎殿

甲十二号

御葬儀参列願

當宮妃殿下ヲ總裁ニ奉戴仕ル
大日本女学會總代トシテ私儀
御葬儀ニ参列ノ義御許可ヲ
蒙リ度此段奉願候也

明治三十六年
二月廿日

大日本女学會理事長山澤俊夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

彰仁親王殿下葬儀係
御中

多田葬儀掛手許

聴許ノ旨口頭ヲ以テ達済 二月廿二

御届

仁和會代表

市原平兵衛

右者義明二十六日
故小松宮彰仁親王殿下御葬儀ニ付仁
和會ヲ代表シテ御奉送申上候條此段
及御届候也

明治三十六年二月二十五日

仁和會々長侯爵黒田長成代
泉智等

故小松宮殿下
御葬儀係長御中

伺

明二十六日　　故小松宮彰仁親王殿
下御葬儀御埋棺被為済御参列貴方々
御引退ノ後チ仁和寺御一代ノ御縁故
ニ依リ親シク御墓前ニ於テ御参拝仕
度候義御支障無之候哉此段相伺候也

明治三十六年二月二十五日

京都御室仁和寺門跡

大僧正泉智等

故小松宮殿下

御葬儀係長男爵三宮義胤殿

本文願出ニ對シ差支無之旨口達セリ
但僧侶五名 御埋棺中検番所前ニ列立讀経セリ

御願

真言宗高野派管長大僧正原心猛代
権中僧正 龍池密雄
會委員
中僧正 山科俊海
中僧正 松橋祐善

本山空也堂住職
上人葛原定慶代理
聖坊政岡玉乘

右之者故小松宮殿下御葬儀奉送之儀御
允許被成下度此段奉願候也
明治三拾六年二月廿三日

本文願出ニ對シ差支無之旨口達セリ
但僧侶五名御埋棺中検番所前ニ列立讀経セリ

御願

真言宗高野派管長大僧正原心猛代
権中僧正　龍池密雄

高野山興隆會委員
権中僧正山科俊海

仝
権中僧正松橋祐善

右之者故小松宮殿下御葬儀奉送之儀御
允許被成下度此段奉願候也

明治三拾六年二月廿三日

権中僧正龍池密雄

故小松宮殿下御葬儀係
男爵三宮義胤殿

本文口頭ヲ以テ許可シ列内神佛各宗派管長ノ位置ニ入レタリ

明二十六日

故小松宮彰仁親王殿下　御葬儀之際本校
職員生徒一同小石川區江戸川端邊ニ整列奉
送可仕候間此段預メ申上置候也

明治三十六年二月廿五日

成城學校長岡本則録

御葬儀掛長
男爵三宮義胤殿

立案 明治廿六年二月廿二日

決裁 明治　年　月　日

掛長　（印）　掛

角力協會ヨリ別紙出願ノ處前例モ有之ニ付左ノ通指令相成然ルヘキ哉

指令案

願ノ趣許可ス

今般彰仁親王殿下薨去被為在候ニ付テハ
角力協會ニ於テ相應ノ御用被仰付候様
奉願度御都合モ被為在候得共御柩
錦旗等ニ付テノ御用被仰付候ハヽ難有仕
合ニ御座候御聞届ノ上ハ諸事御命令
通堅ク相守リ可申候間何卒御聞届
被下度奉願候

明治三十六年二月廿二日

角力協會

故彰仁親王葬儀掛

御中

東京大角
觝協會
取締之印

故小松宮彰仁親王殿下御葬儀御當日

御靈柩　奉舁

錦旗　奉持

御用力士連名

力士總指揮役

雷　權太夫

尾車文五郎

友綱貞太郎

根岸治右衛門

御用相勤候力士年寄

錦戸辰五郎

君ヶ濱市五郎

玉垣額之助
熊ヶ谷弥三郎
桐山権平
清見潟又市
以上年寄
以下力士
狭布里錦太夫
北海代太郎
大戸崎岩松
鳴瀬川辰三郎
朝月竜倉之助
小櫻春吉
有村直吉

岩ノ森市治
紫雲竜吉之助
和島洋光吉
駒勇角重
岩ヶ谷芳蔵
加増山国之助
草薙斂雄
境嶽寛蔵
鳳凰山大五郎
岩戸川芳蔵
種川勇吉
浪ノ音健蔵
二葉山由太郎

高尾山松助
大甲信太郎
筑广川震右エ門
高達啓蔵
中戸川辰五郎
達ヶ関森右エ門
鴨緑江洋右エ門
嵐山捨吉
梅山角太郎
竜ヶ浪與三治郎
鄕波萬之助
白ノ峰巳之次
寶来繁蔵

梅ヶ関光太郎
若虎庄太郎
鳥ノ海清太郎
半田川峯次
若汐福寿
常陸野松吉
平田山清蔵
松ノ森新吉
花ノ川浅五郎
谷岩文三郎
六ツノ里國風
巴川友吉
福ノ島半之助

小倉山源次郎
朝日川長市
赤木山浅吉
武生川市太郎
矢筈鉄五郎
荒鬼納蔵
梅垣弥吉
瀧ノ音新吉
雷ヶ浦喜太郎
米ノ森辰治郎
國木甚三郎
八幡岩休次郎
金臼孫太郎
若ノ矢鶴吉
金土周吉
荒松万太郎
金時大五郎
森ノ川伊平

右之通候也
明治三十六年二月廿三日
東京大角力協會

立案　明治廿六年二月廿五日

決判　明治　年　月　日

掛長　否

掛

写真師河浦謙一（丸木利陽　佐藤鉄六郎）ヨリ別紙ノ通出願ノ処

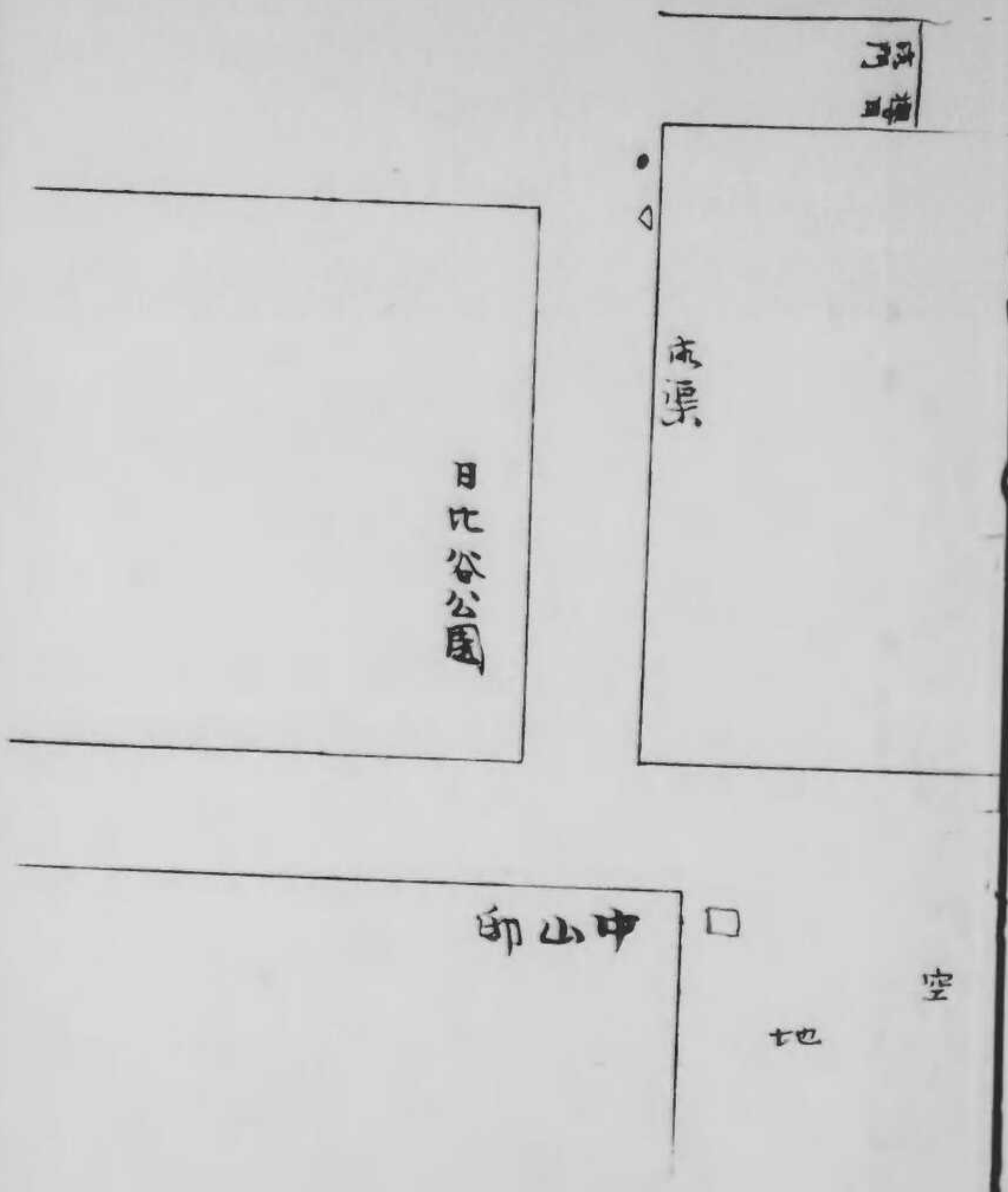
前例モ有之ニ付左ノ通指令本紙ニヘし

指令案

途中行旅ノ際銃ノ携帯聞許ス

写真撮影ノ義

私儀是迄故小松宮殿下ヨリ幻燈ノ御用ヲ蒙リ居候処今回御葬儀ノ実況ヲ活動写真ニ謹写仕リ一ハ御本邸ヘ献納シ御組合ニ仕候（御本邸ニハ活動写真ニ幻燈器械ノ御備有之候）其他ハ各地方ノ赤十字社及団体会等ニテ御葬儀ヲ拝観ニ出京シ難キ社員及会員等ニ活動写真ニヨリ御葬儀ヲ拝セシメ度様存居候ハ是迄赤十字社、愛国婦人会、衛生会等ニ於テ各地方ヘ出張致シ会場ニ幻燈ヲ御覧ニ入候処今回ノ御盛儀ヲ拝セントシテ出京セシ社員及会員ヘヨリモ同一ニ希望ヲ申来リ候モノ続々有之候ニ付何



□印ノ場所ニテ撮写仕度且同所差支アレハ△印ノ所ニテ撮写仕度候両様共差支アレハ此指定場所ニテ撮写仕度候

本書附図面ノ場所ニ於テ大葬
儀行列先駆ヨリ大輿ノ前迄ヲ撮写仕度
候間何卒特別ノ御詮議ヲ以テ御許可
ノ程奉願上候也
追テ場所及大行列ハ凡三尺差支之記
分ハ凡テ其時指揮命令ニ通フヘク候

東京市京橋区南金六町十三番地
吉澤商店主
河浦謙一

明治卅年二月廿四日

御写真撮影料

四廿六日々製儀御出精ニ相成ニ三
ケ取ニ而撮影仕候ニ付御仕向可有之
候ハヽ右申上候也

御台閣内出張之処
御作事中
薩摩國寺内

三日夕
〃
〃

明治卅六年二月廿五日　芝区新桜田町
写真師　丸木利陽

小松宮御葬儀掛御中

御願

一今般故小松宮殿下御葬儀御當日之御模様為紀念双眼寫眞器械ヲ以テ御撮影致置度此段御許可之程奉懇願候也

東京市日本橋區
三代町貳拾七番地
佐藤鉄次郎

明治参拾六年
貳月貳拾五日

故小松宮殿下
御葬儀掛
御中

[redacted]

立案 明治卅六年二月廿一日
決裁 明治　年　月　日

掛長

掛

掛属

豊島岡式場布設并莚席図別紙
之通取調相伺候也